

優しさのすれ違い

横断歩道脇で生徒たちの安全を見届けながらあいさつをしている私ですが、時々よそごとをしているときがあります。生徒の姿がない時には、道路わきの花壇の草取りや掃き掃除、時にはストレッチをしていて、つい夢中になってしまします。

そんな時、生徒が近づいてきたことに気付かないことがあります。その時の生徒の反応として、次の二つのタイプがあります。一つは、よそごとに夢中になっている私に、道路の向こうから大きな声で「おはようございます」と声をかけてくれるタイプ。もう一つは、あいさつしないで通り過ぎていくタイプ。調べたわけではありませんが、六対四ぐらいで前者のタイプが多いような気がします。あなたはどちらのタイプですか。

あいさつをしないで通過していく生徒を、私は責めるつもりは毛頭ありません。なぜなら、いつもは私に礼儀正しくあいさつをする生徒ばかりだということはわかっていますから。むしろ、気付かなかった私が悪いと思いますし、もしかしたら、夢中になっている私のじゃまにならないようにと、気を配ってくれたのかもしれないと思っています。

毎朝あいさつを交わす地域の方がいらっしやいます。その方も横断歩道を利用されるのですが、渡ることができる状態になるのを、横断歩道からかなり離れた所で待ってみえます。だれもが急いでいる朝の出勤時、自分が一人渡ることとで運転手に気を遣わせたくないという優しさからのようです。その方は、車の流れが途切れるのを待ち、横断歩道を渡ってみえます。

しかし、運転手の中には、横断歩道から遠くに立っているその方の姿を見つければ、車を止めてくださる優しい方がいらっしやいます。すると、その地域の方は「どうぞ（私に構わず）通過してください」という意味で、手で合図をされます。それを見て、車を止めてくださった運転手は、それを見て車は再び走らせます。

運転手に対する地域の方の優しさ。歩行者に対する運転手の優しさ。どちらも素敵です。しかし、優しさは時として接することなく、すれ違ってしまいう時があるようです。互いに相手の優しさに気付ける場合はよいのですが、それができないと、優しさから出た行動が逆に仇（あだ）になることもあるかもしれません。

生徒と校長の間では、優しさがすれ違っても関係が崩れることはありません。しかし、それは学校という限られた範囲内でのみ言えることです。中学生として、地域や一般の方と接するときはそうはいかないことをわかっていくべきですね。後ろからでもあいさつの声をかける場合と、かけずに通り過ぎていく場合では大きく違ってきますからね。（三月二十四日 記）